

飼育員は見たべあ！

のぼりべつ
クマ牧場通信
40号

2020年
10月1日

発行

のぼりべつ
クマ牧場
動物課

子グマのハンティング

2020

レディーハンター現る！

9月の土日祝日限定で「子グマのハンティングタイム」を行いました。野生のヒグマは川でサケを獲って食べる個体もいます。このイベントでは、その状態に見立てて子グマ牧場内に水槽を設置し、ニジマスを入れ、子グマに狩りを

経験してもらおうイベントです。今年、エース1頭だけでのハンティングタイムでした。初めの頃は、なかなかニジマスを獲ることもできず苦戦していましたが、回数を



ニジマスをハンティングする
エース =9月19日

重ね、魚を捕まえることに慣れてくると、一発でニジマスを仕留めるなど、前肢を起用に使い、深い所にいるニジマスを水面に近い所までおおり、口でくわえて捕まえることもできるようになりました。

ハンティング初回は？

初ハンティングの日、初めて自分の力で1匹目を獲得した時、エースは嬉しそうに、ニジマスをくわえたまま牧場内を走り回り、飼育員から見えにくいところで少しずつニジマスを食べていました。

落ち着かないのか、警戒しているのか、同じ場所で完食するわけではなく、少し食べては移動しながら振り回すなどエースなりの食べ方を探しているようでした。

クマによっては、水槽の外側から動くニジマスを目で追いかけるだけで上手に捕まえることができないうまくと、どこで習得してきたのか、初回から上手にニジマスを捕まえることができるクマがいます。エースは上手に捕まえることができる、優秀なハンターでした。

ハンティングを通してまた一歩ずつ成長していったエース。これからも元氣よく立派な大人になってくれることを願っています。

スミリ母さん、第二牧場に復帰

2020年1月24日、スミリの産室でエースは誕生しました。今では、エースはすくすくと育ち、子グマ牧場で遊んでいます。一方、スミリはというと、冬の間出産のために1頭で生活していたため、集団生活に戻れるように、第二牧場への復帰準備を進めていました。まずは、冬の間こもっていた産室から出て、明るい放飼場や獣舎に慣れてもらいます。巣穴のような構造の産室はクマの体臭が強くなっているため、他の個体が過剰に反応しないよう、数日かけて臭いを戻していく時間も必要です。そして、それらを終えた後、第二牧場のクマと少しずつお見合いをして、集団生活に戻ることができそうです。エースのお母さんの元氣な姿をぜひ第二牧場でご覧になってみてください。



第二牧場の端から
こちらを見つめるスミリ
=9月15日

